



参加作家略歴

蔡國強 Cai Guo-Qiang (ツァイ・グオチャン)

1957年中国福建省泉州市生まれ
1981-85 上海演劇大学美術学部
1986-95 東京在住
1995- ニューヨークを拠点に活動

主な受賞歴

2012 第24回高松宮殿下記念世界文化賞
2009 第20回福岡アジア文化賞
2007 第7回ヒロシマ賞
1999 第48回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展
金獅子賞

主な祭典

2010 中華民国建国100周年[芸術監督]
2009 中華人民共和国建国60周年記念式典[芸術監督]
2008 北京オリンピック開会式・閉会式[ヴィジュアルディレクター]

主な個展

2013-14 「Cai Guo-Qiang: Falling Back to Earth」
ブリスベン近代美術館
2011-12 「Cai Guo-Qiang: Saraab」アラブ近代美術館
(カタール・ドーハ)
2008 「Cai Guo-Qiang: I Want to Believe」グッゲンハイム美術館(ニューヨーク)、中国美術館
(北京)、グッゲンハイム・ビルバオ(スペイン)
2006 「Head On」ドイツ・グッゲンハイム美術館
(ベルリン)
2002 「Cai Guo-Qiang」上海美術館
1997 「Cultural Melting Bath: Projects for the
20th Century」クイーンズ美術館(ニューヨーク)

主な国際展

2001 横浜トリエンナーレ2001

1999 第48回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展
1998 台北ビエンナーレ1998
1995 第46回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展

日本でのプロジェクト

2008-09 「第7回ヒロシマ賞受賞記念 蔡國強展」
広島市現代美術館
1994 「外星人のためのプロジェクトNo. 14: 地平線——環太平洋より」第12回アジア競技大会(広島)
1994 「平安建都1200年のためのプロジェクト: 長安からのお祝い」京都市役所前広場
1994 「地平線——環太平洋より: 外星人のためのプロジェクトNo. 14」いわき市立美術館

農民ダ・ヴィンチ

2013 「Cai Guo-Qiang: Da Vincis do Povo」ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ巡回
2010 「Cai Guo-Qiang: Peasant Da Vincis」上海外滩美術館

*作品写真の申請は広報担当まで

これまでのPARASOPHIAとの活動

2013.10.14 京都造形芸術大学(京都市左京区)
オープンリサーチプログラム04[対談]ダイアローグ——蔡國強×浅田彰

*記録写真の申請は広報担当まで



参加作家略歴

ヘフナー/ザックス Hoefner/Sachs

フランツ・ヘフナー Franz Hoefner

1970年ドイツ・シュタルンベルク生まれ、ベルリン在住
1993-94 ルール大学ボーフムで映画やテレビ製作
を学ぶ

1994-2000 ワイマール・パウハウス大学で修士課程
(MFA)修了

ハリー・ザックス Harry Sachs

1974年ドイツ・シュトゥットガルト生まれ、ベルリン在住
1995-97 ワイマール・パウハウス大学で美術を学ぶ
1997-2002 ハンブルク美術大学で修士課程 (MFA)
修了

主なレジデンス

- 2006 レ・ペピニエーレ(ブタペスト)
- 2004 「Radar Connecting Europe」(ロンドン)
- 2003 「Radar Connecting Europe」(ヴェネツィア)

主なプロジェクト及び個展

- 2011 「Piccolo Mondo」ギャラリー・インヴァリー
デン1(ベルリン)
- 2009 「Testfahrten」ヴェルクライツ・メディア
アートセンター(ドイツ・ハレ)
- 2008 「BaumWall」ノイケルン区パブリック
スペース(ベルリン)
- 2008 「Forum Arcaden」クンストフェライン・ゲラ
(ドイツ・ゲラ)
- 2007 「Rückbau」ギャラリー・インヴァリーデン1
(ベルリン)
- 2007 「Sanierungsmaßnahmen」ヴェント+
フリードマン・ギャラリー(ベルリン)
- 2006 「Honey Neustadt」パブリックスペース
(ベルリン)
- 2005 「Active Men」フォ・ムヴマン現代美術セン
ター(フランス・メス)
- 2005 「Home Run」ホームー・ギャラリー(ベルリン)
- 2004 「Interieur」フォ・ムヴマン現代美術センター
(フランス・メス)
- 2003 「Neuhaus-Wohnerlebniswelt」クルトゥー
ア/ブロック、ハレ=ノイシュタット(ドイツ)

主なグループ展及び国際展

- 2013 「Love Triangle」ゲーテ・インスティトゥート/
セルバンテス文化センター(ストックホルム)
- 2013 「Imaginary Travels」アメリカ・ハウス(ベル
リン)
- 2011 「Kleistpark」クライスト・フェスティバル
(ベルリン)
- 2011 「Real Restate」ウィッテ・デ・ウィット・フェ
スティバル(ロッテルダム)
- 2009 「Fontaine」ニュー・ブランシュ(フランス・メス)
- 2003 「Radar Connecting Europe」第50回ヴェ
ネツィア・ビエンナーレ国際美術展「Extra 50」

主な映画祭参加およびテレビ放映

- 2008-12 「Die Nacht / La Nuit」ドイツ・フランス共同
テレビ局ARTE
- 2009 アンビュラート・オーディオビジュアル芸術
祭(メキシコ・グアダラハラ、エクアドル・キ
ト、グアヤキル、ドイツ・ハンブルク)
- 2007 第18回サンパウロ国際短編映画祭

作品の例

2006 《Honey Neustadt》
ミツパチのための東ドイツ式「プラッテンbau (Plat-
tenbau)」[東ドイツ特有のプレハブ建築の一種]高層
団地、コマンダンテン通(Kommandantenstrasse)と
ボイト通(Beuthstrasse)の角(現在のベルリン_ツェ
ントラム彫刻公園[Skulpturenpark Berlin_Zentrum]
内)、ベルリン、2006年6月-10月
発泡スチロール製巣枠60点(各50×50×20 cm)を積
み上げて作られた東ドイツのプレハブ式団地モデル
WBS 70、PHH 12、PHH 16、IW 64 P、P2 IW 76の
1/20スケールモデルとしての8つの巣箱

*作品写真の申請は広報担当まで



参加作家略歴

石橋義正 Yoshimasa Ishibashi

1968年京都生まれ

- 1993 英国王立芸術大学(RCA)映画科交換留学
- 1994 京都市立芸術大学大学院美術研究科(造形構想)修了
- 1996 キュピキュピ結成
- 2000 石橋プロダクション設立
京都を拠点に活動

主な個展(キュピキュピ含む)

- 2010 「SickeTelーキュピキュピと石橋義正ー」
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(香川)
- 2004 「Mikey's Attack」キリンプラザ大阪
- 2003 「Kyupi Kyupi The Wide Show」パレ・ド・
トーキョー(パリ)
- 2000 「Kyupi Kyupi 1 million Super Deluxe」
キリンプラザ大阪

主なグループ展・国際展(キュピキュピ含む)

- 2006 「Trial Balloons」レオン市立現代美術館
(スペイン)
- 2003 「Z.O.U.ーZone of Urgency」アルセナーレ
(第50回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展)
- 2001 「JAM: Tokyo-London」パービカン・アー
トギャラリー(イギリス)
- 1999 「身体の夢:ファッションor見えないコル
セット」京都国立近代美術館、東京都現代
美術館

主な舞台・ライブ(キュピキュピ含む)

- 2012 『アトメスツパイ』高知県立美術館ホール
- 2011 『伝統芸能バリアブル』京都芸術劇場 春秋座
- 2004 『キャバロティカ』テート・モダン(ロンドン)

映画

- 2010 『ミロクローゼ』[監督・脚本・製作・編集]
- 2001 『カラー・オブ・ライフ』[監督・脚本・製作・
撮影・編集・音楽監督]
- 1997 『狂わせたいの』[監督・脚本・製作・美術・
撮影・編集・出演]

主なテレビ番組製作

- 2002- テレビ東京系「オー!マイキー」[監督・脚本・
製作・撮影・編集]
- 2000 テレビ東京系「バミリオン・プレジャー・ナイト」
[監督・脚本・製作・撮影・編集・音楽]

主な映画祭出品・受賞歴

- 2011 『ミロクローゼ』
- 2012年第6回アジア・フィルム・アワード(香港)衣
装賞ノミネート、第12回オシアン映画祭(インド)審査
員特別賞
- 2011年ファンタスティック・フェスト(アメリカ)最優秀
長編映画賞、第15回ファンタジア国際映画祭(モントリ
オール)最優秀監督賞ほか

2002 『The Fuccons』

- *[『オー!マイキー』英語吹き替え版]
- 2004年第54回ベルリン国際映画祭、第28回香港国
際映画祭、メルボルン国際映画祭、第4回富川国際フ
ァンタスティック映画祭(韓国・富川)、第24回ハワイ
国際映画祭(ホノルル)、第33回フェスティバル・ド・
ヌーヴォー・シネマ(モントリオール)正式出品ほか

2001 『フーコン・ファミリー』

- 2001年第3回京都映画祭奨励賞、第6回ファンタジア
国際映画祭(モントリオール)グラウンド・プレイカー
ズ賞、シネマ・トゥ・エクラン映画祭(ジュネーブ)審査
員特別賞、ロカルノ国際映画祭(スイス)ビデオコンペ
ティション部門ノミネートほか

1997 『狂わせたいの』

- 1998年ストックホルム国際映画祭正式出品、第8回日
本映画プロフェッショナル大賞新人監督賞受賞

1991 「CR製薬株式会社」

- 1991年第2回キリンプラザ大阪コンテンポラリーアワ
ード優秀賞、映像部門賞

これからのPARASOPHIAとの活動

- 2014.04.18 京都芸術センター/flowing KARASU-
MA(京都市中京区)
- アクセスプログラム[勉強会]石橋義正

*取材のお問合せ・記録写真の申請は広報担当まで



参加作家略歴

ピピロッティ・リスト Pipilotti Rist

1962年スイス・グラープス生まれ
1982-86 ウィーン工芸学校
1986-88 スクール・オブ・デザイン(バーゼル)
チューリヒを拠点に活動

主な受賞歴

- 2010 マイアミ国際映画祭(カッティング・エッジ・コンペティション)グランプリ
- 2009 第26回全米国際美術評論家連盟最優秀展覧会(デジタルメディア・ビデオ・映画)一席
- 2009 ジョアン・ミロ賞
- 1997 第47回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展若手作家優秀賞

主な個展

- 2013 「Gentle Wave In Your Eye Fluid」時代美術館(中国・広州)
- 2012 「Pipilotti Rist: Spear to Heaven」サムスン美術館 リウム(ソウル)
- 2011 「I Packed the Postcard in My Suitcase」オーストラリア現代美術センター(メルボルン)
- 2009 「Elixir: the video organism of Pipilotti Rist」ボイマンス・ヴァン・ペーニンゲン美術館、ヘルシンキ現代美術館 キアズマを巡回
- 2008 「Pour Your Body Out (7354 Cubic Meters)」ニューヨーク近代美術館
- 2007 「A la belle étoile」ボンピドゥー・センター
- 2004 「Zamek Ujazdowski Warszawa, Pipilotti Rist」現代美術センター(ワルシャワ)
- 2001 「Apricots Along the Streets」ソフィア王妃芸術センター
- 1999 「Remake of the Weekend」パリ市立近代美術館

主な国際展

- 2014 第19回シドニー・ビエンナーレ
- 2011 第54回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展
- 2007 第2回モスクワ・ビエンナーレ
- 2002 第4回上海ビエンナーレ
- 2000 第12回シドニー・ビエンナーレ
- 1999 第48回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展
- 1998 第1回ベルリン・ビエンナーレ
- 1997 第5回イスタンブール・ビエンナーレ

- 1997 第2回光州ビエンナーレ
- 1997 第4回リヨン・ビエンナーレ
- 1997 第47回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展

主な日本における出品

- 2009 ヨコハマ国際映画祭2009
- 2007-08 「ピピロッティ・リスト: からから」原美術館(東京)
- 2002 「The Cake Is in Flames」資生堂ギャラリー(東京)
- 2001 横浜トリエンナーレ2001
- 1999 「身体 of 夢: ファッション or 見えないコルセット」京都国立近代美術館、東京都現代美術館

近作の例

- 2014 《Mercy Garden Retour Skin》6チャンネルHDビデオ、サウンド、カーペット、枕のインスタレーション
- 音楽: ハインツ・ローラー
- 第19回シドニー・ビエンナーレ(2014)出品

*作品写真の申請は広報担当まで

これからのPARASOPHIAとの活動

- 2014.02.29 京都国立近代美術館(京都市左京区)オープンリサーチプログラム[レクチャー]ピピロッティ・リスト

- 2014.02.29 京都国立近代美術館(京都市左京区)アクセスプログラム[ギャラリートーク]私的防災計画: ピピロッティ・リストの作品を中心に
- ナビゲーター: 牧口千夏(京都国立近代美術館研究員)

*取材のお問合せ・記録写真の申請は広報担当まで

参加作家略歴

ウィリアム・ケントリッジ William Kentridge

1955年南アフリカ共和国ヨハネスブルグ生まれ
1973-76 ウィットワータールスラント大学(ヨハネスブルグ)
1976-78 ヨハネスブルグ美術財団
1981-82 エコール・ジャック・ルコック(パリ)
ヨハネスブルグを拠点に活動

主な受賞歴

2010 第26回京都賞(思想・芸術部門)
2008 オスカー・ココシカ賞
2003 カイザーリング賞
1999 カーネギー賞1999/2000

主な個展

2009-10 「ウィリアム・ケントリッジ——歩きながら
歴史を考える:そしてドローイングは動き始
めた……」京都国立近代美術館、東京国立
近代美術館、広島市現代美術館
2009-12 「William Kentridge: Five Themes」サンフ
ランシスコ近代美術館、ノートン美術館(フ
ロリダ州ウェストパームビーチ)ほか欧米と
イスラエルを巡回
2001-03 「William Kentridge」ハーシュホーン博物館
と彫刻の庭(ワシントンD.C.)、ニュー・ミュー
ジウム・オブ・コンテンポラリー・アート(ニュー
ヨーク)ほかアメリカ国内と南アフリカ共和
国を巡回

主なオペラやパフォーマンスの初演

2012 オペラ『Refuse the Hour』第66回アヴィニョ
ン演劇祭(フランス・アヴィニョン)[フィリッ
プ・ミラー、キャサリン・マイバーク、ピーター・
ギャリソンほかとの共同制作]
2010 ドミートリイ・ショスタコーヴィチ作曲オペラ
『鼻』メトロポリタン・オペラ(ニューヨーク)
[演出]
2008 レクチャー/パフォーマンス「I am not me,
the horse is not mine」第16回シドニー・ビ
エンナーレ(京都[京都会館、2009]と広島
[南区文化センター、2010]で再演)
2005 モーツァルト作曲オペラ『魔笛』モネ劇場(ブ
リュッセル)[演出]

主な国際展

2012 ドクメンタ13(ドイツ・カッセル)
2008 第16回シドニー・ビエンナーレ
2005 第51回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展
2002 ドクメンタ11(ドイツ・カッセル)
2001 横浜トリエンナーレ2001
2000 第3回光州ビエンナーレ
1999 第48回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展
1997 ドクメンタ10(ドイツ・カッセル)
1996 第10回シドニー・ビエンナーレ

近作の例

2012 《NO, IT IS》
フリップブック映像(3点組)、HDビデオ
《Workshop Receipts》再生時間3分17秒
《The Anatomy of Melancholy》再生時間2分21秒
《Practical Enquiries》再生時間2分19秒
2012 《時間の抵抗》(原題: The Refusal of Time)
5チャンネルビデオ、サウンド、メガフォン、呼吸する機
械(木製の可動式装置)のインスタレーション(再生
時間30分)
コラボレーション: フィリップ・ミラー、キャサリン・マイ
バーク、ピーター・ギャリソン

*作品写真の申請は広報担当まで

これまでのPARASOPHIAとの活動

2014.02.08-03.16 元・立誠小学校(京都市中京区)
プレイベント[作品展示]ウィリアム・ケントリッジ《時
間の抵抗》
2014.02.22 先斗町歌舞練場(京都市中京区)
プレイベント[作品展示]ウィリアム・ケントリッジ《時
間の抵抗》関連イベント[レクチャー]ウィリアム・ケント
リッジ「宿命からの逃走——《時間の抵抗》について」

*記録写真の申請は広報担当まで



参加作家略歴

スーザン・フィリップス Susan Philipsz

1965年イギリス・グラスゴー生まれ
1989-93 ダンカン・オブ・ジョーダンストーン・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン(イギリス・ダンディー)
1993-94 アルスター大学(イギリス・ベルファスト)
ベルリンを拠点に活動

主なレジデンス・受賞歴

2014 大英帝国勲章(OBE)
2010 ターナー賞
2001 クンスト・ヴェルケ現代美術センター アーティストインレジデンスプログラム(ベルリン)
2000 P.S.1スタジオレジデンスプログラム

主な個展

2014 「Part File Score」ハンバーガー駅(ベルリン)
2013 「The Missing String」K21ノルトライン・ヴェストファーレン州立美術館(デュッセルドルフ)
2012 「Close To Me」パラッツォ・レアーレ(ミラノ)
2011 「We Shall Be All」シカゴ現代美術館
2011 「Seven Tears」ルートヴィヒ・フォーラム(アーヘン)
2011 「You Are Not Alone」ハウス・デス・ルンドフンクス(ベルリン)
2010 「Surround Me」アートエンジェル(ロンドン)
2010 「I See a Darkness」ターニャ・ボナクダー・ギャラリー(ニューヨーク)
2009 「Appear to Me」サント・ドミンゴ・デ・シロス修道院(スペイン・ブルゴス)
2000 「The Internationale」クンスト・ヴェルケ現代美術センター(ベルリン)

主なグループ展

2014 マニフェスタ10(サンクトペテルブルク)
2013 「A Contemporary Score」ニューヨーク近代美術館
2012 エディンバラ・アート・フェスティバル
2012 ドクメンタ13(ドイツ・カッセル)
2010 グラスゴー・インターナショナル・フェスティバル・オブ・ビジュアルアート

2010 IHMEコンテンポラリーアートフェスティバル 2010(ヘルシンキ)
2010 「Haunted」グッゲンハイム美術館(ニューヨーク)
2008 第55回カーネギー・インターナショナル(ピッツバーグ)
2007 第4回ミュンスター彫刻プロジェクト(ドイツ・ミュンスター)
2006 第4回ベルリン・ビエンナーレ
2000 マニフェスタ3(リュブリアナ)

主なパブリックコレクション

テート(ロンドン)、グッゲンハイム美術館(ニューヨーク)、ハーシュホーン博物館と彫刻の庭(ワシントンD.C.)、ウォーカー・アート・センター(ミネアポリス)、シカゴ現代美術館、カーネギー美術館(ピッツバーグ)、オルブライト=ノックス美術館(バッファロー)、ルードヴィヒ美術館(ケルン)、LWL自然史博物館(ミュンスター)、リヴォリ城(トリノ)、ソフィア王妃芸術センター(マドリッド)、ストックホルム近代美術館、パラッツォ・レアーレ(ミラノ)、MONA(ホバート)、イスラエル美術館(エルサレム)

近作の例

2014 《Part File Score》
24チャンネルサウンドインスタレーション(再生時間 36分49秒)

2012 《Study for Strings》
24チャンネルサウンドインスタレーション(再生時間 13分)

*作品写真の申請は広報担当まで

これからのPARASOPHIAとの活動

2014.04.20 京都芸術センター(京都市中京区)
オープンリサーチプログラム[レクチャー]スーザン・フィリップス「You Are Not Alone」

*取材のお問合せ・記録写真の申請は広報担当まで

参加作家略歴

ドミニク・ゴンザレス=フォルステル Dominique Gonzalez-Foerster

1965年フランス・ストラスブール生まれ
1982-87 国立現代美術センター・グルノーブル附属
レコール・デュ・マガザン
1988-89 パレ・ド・トーキョー附属造形芸術高等学校
パリとリオデジャネイロを拠点に活動

主なレジデンス・受賞歴

2002 マルセル・デュシャン賞
1996-97 ヴィラ九条山(京都)招聘
1996-97 ミース・ファン・デル・ローエ賞
1994 アーカスプロジェクト(茨城)プレ事業招聘

主な個展

2014 「SPLENDIDE HOTEL」レティーロ公園内
パラシオ・デ・クリスタル(マドリッド)[ソフィ
ア王妃芸術センター主催]
2013 「Cloud Illusions I Recall」アイルランド現
代美術館(ダブリン)[ケリス・ウィン・エヴァ
ンスとのコラボレーション]
2009 「chronotopes & dioramas」ディア美術財
団(ニューヨーク)
2008 「TH.2058」テート・モダン(ロンドン)ター
ビン・ホール
2008 「NOCTURAMA*」カスティージャ・レオン
現代美術館(スペイン)

主なパフォーマンス

2012 アリ・ベンジャミン・マイヤーズとのパフォー
マンス《T.451》テンスタ・コンストハル(ストック
ホルム)
2012 トリスタン・ベラとのプロトシネマのプロデュ
ースによるイベント「The 121st Night」スーリ
エ・バサージュ(イスタンブール)
2011 ワードレス・ミュージック・オーケストラとの
パフォーマンス《T.1912》グッゲンハイム美
術館(ニューヨーク)
2009 アリ・ベンジャミン・マイヤーズとのパフォー
マンス《K.62》《K.85》パフォーマ09(ニュー
ヨーク)

主な国際展

2014 マニフェスタ10(サンクトペテルブルク)
2013 第8回モントリオール・ビエンナーレ
2009 第53回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展
2007 第4回ミュンスター彫刻プロジェクト(ドイツ・
ミュンスター)
2002 ドクメンタ11(ドイツ・カッセル)
2001 横浜トリエンナーレ2001

近作の例

2013 《無題(映画について)》
カーペット、書籍(『Vフォー・ヴェンデッタ』、『目眩し』、
『モレルの発明』、『インディア・ソング』、『去年マリエ
ンバートで』、『映画は頭を開放する』、『カフカ、映画に
行く』、『追放された魂の物語——映画監督ジョセフ・
ロージー』、『清順スタイル』、『パノラマ島奇談』、『ツ
イン・ピークス——ローラの日記』、『タイム・マシン』、
『富嶽百景』、『ゴダール 映画史』)

2012- 「M.2062」シリーズ(レクチャー/パフォーマンス)
2013年《M.2062 (Scarlett)》京都府京都文化博物
館別館(PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015
オープンリサーチプログラムとして開催)
2013年《M.2062 (The Boy with Green Hair)》アイル
ランド現代美術館(ダブリン)
2013年《M.2062 (Ludwig)》アムステルダム市立美術館
2012年《M.2062》サーペンタイン・ギャラリー(ロンドン)

これまでのPARASOPHIAとの活動

2013.09.06 京都文化博物館別館(京都市中京区)
オープンリサーチプログラム03[レクチャー/パフォー
マンス]ドミニク・ゴンザレス=フォルステル「M.2062
(Scarlett)」

*記録写真の申請は広報担当まで



参加作家略歴

やなぎみわ Miwa Yanagi

1967年神戸生まれ

1991 京都市立芸術大学大学院美術研究科修了
京都を拠点に活動

主な受賞歴

2001 京都府文化奨励賞

1999 京都市芸術新人賞

主な個展

- 2009 「Windswept Women: The Old Girls' Troupe」
第53回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展
日本館
- 2009 「やなぎみわ マイ・グランドマザーズ」東京
都写真美術館
- 2007 「Miwa Yanagi」切尔西・アート・ミュー
ジウム(ニューヨーク)
- 2005 「やなぎみわ マダム・コメット」大原美術館
有隣荘(岡山)
- 2005 「やなぎみわ 無垢な老女と無慈悲な少女
の信じられない物語」原美術館(東京)
- 2004 「やなぎみわ 少女地獄極楽老女」丸亀市
猪熊弦一郎現代美術館(香川)
- 2004 「Miwa Yanagi: Deutsche Bank Collection」
ドイツ・グッゲンハイム美術館(ベルリン)

主なグループ展

- 2003 「The History of Japanese Photography」
ヒューストン美術館、クリーブランド美術館
- 2002 第13回シドニー・ビエンナーレ
- 2000 「Elysian Fields」ポンピドゥー・センター(パリ)
- 1999 「身体 of 夢: ファッション or 見えないコル
セット」京都国立近代美術館、東京都現代
美術館
- 1998 台北ビエンナーレ1998
- 1997 「Cities on the Move」セセッション館(ウィー
ン)、世界巡回
- 1997 「思い出のあした」京都市美術館

- 1997 「Desire & Void」クンストハレ・ウィーン、アー
ケン近代美術館(コペンハーゲン)ほか巡回
- 1996 プロスペクト96(フランクフルト)
- 1994 「アート・ナウ'94」兵庫県立近代美術館

演劇プロジェクト等

- 2014 やなぎみわ×劇団唐ゼミ☆『パノラマ〜唐ゼ
ミ☆版』台東区入谷(パノラマプロジェクト
【東京篇】)、元・立誠小学校(パノラマプロ
ジェクト【京都篇】)[脚本]
- 2013 『ゼロ・アワー 〜東京ローズ最後のテー
プ〜』KAAT神奈川芸術劇場、愛知県芸術
劇場(あいちトリエンナーレ2013)ほか、
2015年に全米ツアーを予定
- 2012 『パノラマ 〜鉄道篇〜』『鉄道芸術祭vol. 2
やなぎみわプロデュース(駅の劇場)』アート
エリアB1(大阪)
- 2012 『PANORAMA 〜パノラマ〜』『鳥の演劇祭
5』鳥の劇場の鹿の劇場(鳥取)
- 2012 『1924 人間機械』京都国立近代美術館、
高松市立美術館、世田谷美術館
- 2011 『1924 海戦』KAAT神奈川芸術劇場
- 2011 『1924 Tokyo-Berlin』京都国立近代美術館
- 2010 『カフェ・ロッテンマイヤー』東京芸術劇場前
F/Tステーション内(フェスティバル/トー
キョー10)
- 2010 『桜守の茶会』京都芸術センター(明倫茶会)

*記録写真の申請は広報担当まで



補足資料-2

ディレクター略歴および 選定までの経緯

■ アーティスティックディレクター

河本 信治 コウモト シンジ

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015 アーティスティックディレクター

元・京都国立近代美術館学芸課長

京都工芸繊維大学大学院工芸学研究科修士課程意匠工芸学専攻修了。1981年より京都国立近代美術館研究員。2006–2010年まで同館学芸課長。「横浜トリエンナーレ2001 メガ・ウェイヴ:新たな総合に向けて」共同ディレクター。2003年に第50回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展金獅子賞パビリオン部門国際審査委員ならびにドクメンタ12総合ディレクター選考委員を務める。主な企画展に「アゲインスト・ネチャー:80年代の日本美術」(1989)、「プロジェクト・フォー・サバイバル——1970年以降の現代美術再訪:プロジェクト〈意志的・投企的〉な実践の再発見に向けて」(1996)、「ウィリアム・ケントリッジ——歩きながら歴史を考える:そしてドローイングは動き始めた……」(2009)。

■ ディレクター選定までの経緯

特別委員会として「京都国際現代芸術祭2015(仮称)アーティスティックディレクター選考委員会」を設置し、河本信治氏を選定しました。

京都国際現代芸術祭2015(仮称)アーティスティックディレクター選考委員会

委員長	長谷 幹雄	京都経済同友会代表幹事
委員	大野木 啓人	京都造形芸術大学副学長
	岸 和郎	京都大学工学部教授
	潮江 宏三	京都市美術館館長
	篠原 資明	京都大学総合人間学部教授
	島本 浣	京都精華大学芸術学部教授
	高橋 信也	森ビル株式会社執行役員、森美術館館長付アドバイザー
	建畠 哲	京都市立芸術大学学長
	水沢 勉	神奈川県立近代美術館館長

(敬称略・五十音順・法人種類略、肩書きは2013年1月現在)

メイン会場について

メイン会場

京都市美術館

1933(昭和8)年11月、東京都美術館に次ぎ、日本で二番目の大規模公立美術館として設立。

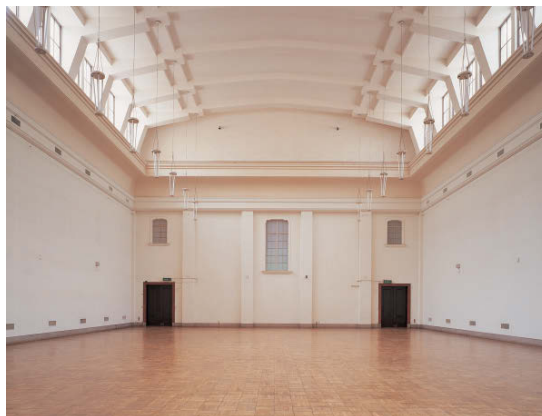
館長：潮江 宏三

設計：前田 健二郎

竣工：1933(昭和8)年

延床面積：9,349 m²

所在地：京都市左京区岡崎円勝寺町124(岡崎公園内)



写真：福永一夫

京都府京都文化博物館

京都の歴史と文化を紹介する総合的な文化施設として、1988(昭和63)年に開館。

館長：荒巻 禎一

延床面積：15,854.7 m²

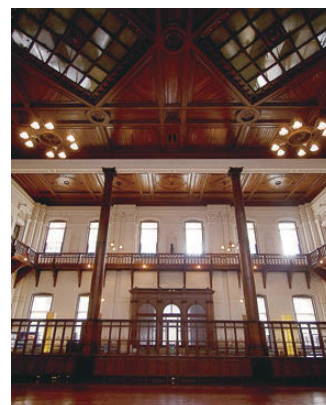
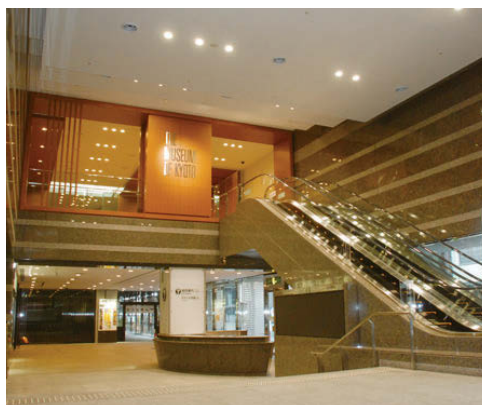
所在地：京都市中京区三条高倉

別館(旧日本銀行京都支店)

※重要文化財指定

設計：辰野 金吾・長野 宇平治

竣工：1906(明治39)年





運営組織

京都国際現代芸術祭組織委員会

会 長 長谷 幹雄 ハセ ミキオ

一般社団法人京都経済同友会代表幹事

長谷ビルディンググループ(株式会社長谷本社)代表取締役社長

長浜市出身。学習院大学経済学部卒業、米国カンザス大学MBA修了。1972年に株式会社長谷本社入社、取締役就任。2001年から同社代表取締役社長。企業理念は「好奇心と冒険心」。1987年京都経済同友会入会。2011年4月から代表幹事。その他に烏丸通まちづくり協議会会長なども務める。

委員会	会 長	長谷 幹雄	京都経済同友会代表幹事
	副会長	門川 大作 山田 啓二	京都市長 京都府知事
評議員	荒巻 禎一	京都文化財団理事長	
	河内 秀則	日本放送協会京都放送局長	
	斎木 宣隆	国際交流基金京都支部長	
	佐々木 雅幸	文化庁文化芸術創造都市振興室長	
	白石 方一	京都新聞ホールディングス代表取締役社長	
	建畠 哲	京都市芸術文化協会理事長	
	増田 寿幸	京都経済同友会代表幹事	
幹 事	生田 義久	京都市教育長	
	奥 美里	京都市文化市民局文化芸術担当局長	
	岡田 秀人	京都市観光協会専務理事	
	小田垣 勉	京都府教育長	
	神山 俊昭	京都府京都文化博物館副館長	
	小西 貴彦	京都府文化環境部文化政策監	
	潮江 宏三	京都市美術館館長	
	下田 元美	京都府立文化芸術会館館長	
	納屋 嘉人	京都経済同友会京都国際現代芸術祭特別委員会委員長	
	細尾 真生	京都経済同友会副代表幹事	
	保科 秀行	京都府観光連盟参与	
	八木 茂	京都経済同友会理事・事務局長	
	山内 秀顯	京都文化交流コンベンションビューロー専務理事	
	若林 卯兵衛	京都経済同友会監事	
顧 問	秋山 喜久	関西広域連合協議会会長	
	有馬 頼底	京都仏教会理事長	
	池坊 由紀	池坊華道会副理事長	
	稲盛 和夫	稲盛財団理事長	
	柏原 康夫	京都府観光連盟会長、京都市観光協会会長	
	千 玄室	裏千家大宗匠	
	高階 秀爾	大原美術館館長	
	武田 一平	京都経営者協会会長	
	立石 義雄	京都商工会議所会頭	
	服部 重彦	京都工業会会長	
	シャルランリ・プロソー	在京都フランス総領事、アンスティチュ・フランセ関西館長	
	マルクス・ヘルニヒ	ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川館長	
	村田 純一	京都文化交流コンベンションビューロー理事長	
	監 事	藤井 龍美	京都銀行協会専務理事
松永 幸廣		京都監査法人マネージングパートナー	

(敬称略・五十音順・法人種類略)



補足資料-4-2

運営組織について

プロフェッショナルアドバイザーボード(※)

メンバー	石原 友明	京都市立芸術大学美術学部教授
	伊東 正伸	国際交流基金文化事業部企画役
	越前 俊也	同志社大学文学部教授
	大野木 啓人	京都造形芸術大学副学長
	神谷 幸江	広島市現代美術館学芸担当課長
	リン・クック	ナショナル・ギャラリー・オブ・アート(ワシントンD.C.)視覚芸術高等研究センター、 アンドリュー W. メロン教授
	ワシフ・コルトウン	SALTオンライン(イスタンブール)リサーチ&プログラムディレクター
	佐藤 守弘	京都精華大学デザイン学部長
	島本 洸	京都精華大学芸術学部長
	杉浦 幸子	武蔵野美術大学芸術文化学科准教授
	高橋 信也	森ビル株式会社執行役員、森美術館館長付アドバイザー
	椿 昇	京都造形芸術大学芸術学部美術工芸学科長
	クリス・デルコン	テート・モダン(ロンドン)館長
	並木 誠士	京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長
	ウテ・メタ・パウアー	南洋理工大學センター・フォー・コンテンポラリー・アート(シンガポール)館長
	ロジャーM.ピュルゲル	ヨハン・ヤコブ博物館(チューリヒ)館長
	平芳 幸浩	京都工芸繊維大学美術工芸資料館准教授
	松尾 恵	MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w(京都)代表
	森脇 清隆	京都府京都文化博物館学芸課映像・情報室長
	山本 麻友美	京都芸術センター プログラムディレクター
	吉岡 洋	京都大学大学院文学研究科美学美術史学教授
	芳野明	京都嵯峨芸術大学芸術学部教授
	リゼッチ・ラニヤード	美術批評家(サンパウロ)

(敬称略・五十音順・法人種類略)

以上23名

※ より優れた芸術祭の実現を目指すことを目的に、アーティストディレクターに対して助言・サポートする専門家により構成する。

京都国際現代芸術祭組織委員会事務局

アーティストディレクター	河本 信治
キュレーター	中谷 至宏(京都市美術館学芸課担当係長)
事務局長	尾崎 宣之
事務局次長	今岡 久登(京都経済同友会事務局課長)
	西田 宏幸(京都府文化環境部文化政策課参事)
	舟瀬 伴子(京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課担当課長)
インターナショナルリレーションズ	一色 與志子
広報	平 昌子
	大西 晶子

(2014.4.4 現在)